日本語教師【初任】（就労者）に求められる資質・能力（案）

資料３－１

	知識	技能	態度
日本語教師【初任】（就労）	**【１．就労者に対する教育実践の前提となる知識】** （1）キャリア支援の視点を持ち，外国人が日本で就労するに際して必要となる手続きや法制度，外国人材受入れ施策の動向に関する基礎的な知識を持っている。 （2）就労のための日本語を指導するに当たって，日本での就労準備から就労後の職場で用いられる日本語及び職場の文化やビジネスコミュニケーション等に関する一定の知識を持っている。 （3）学習者の社会経験や文化背景等に起因する職業観や就労に対する意識・習慣ならびに日本における就労に際して，学習者が直面する文化摩擦や心理不安の要因となる事柄に関する一定の知識を持っている。 **【２．日本語の教授に関する知識】** （4）就労のための日本語教育の一環として日本語が主に使われている職場における文化やビジネスコミュニケーション教育に関する実践的な知識を持っている。 （5）就労準備から就労後に至るまで，就労のための幅広い日本語教育プログラムやリソース・ツール等の教育実践に必要な知識を持っている。 （6）職場での日本語の使用状況の観察や学習者自身が発話のモニタリング・振り返り等を行い，周囲の協力を得ながら自ら学習を進めていけるようにするための指導に必要となる知識を持っている。	**【１．就労者に対する教育実践のための技能】** （1）当該機関における日本語教育プログラムを踏まえ，学習者の状況に応じ，適切な指導計画を立てることができる。 （2）キャリア支援の視点を持ち，学習者が自らのキャリアについて意識し，就労に必要となる日本語能力を身に付けるための効果的な教育実践ができる。 （3）学習者の自律学習を促進するために，ICT等の多様なリソースを活用した効果的な教育実践ができる。 （4）職場でのコミュニケーションにおいて文化摩擦が生じる可能性のある場面を取り上げ，言語文化適応能力を養うための教育実践ができる。 **【２．成長する日本語教師になるための技能】** （5）指導計画に基づき実践した授業や教育活動を分析的に振り返り，改善と新たな実践のための検討ができる。 （6）日本語学習の成果や課題を学習者や職場関係者と共有し，より具体的な改善に繋げるための評価を実践することができる。 **【３．社会とつながる力を育てる技能】** （7）職場をはじめとする関係者と学習者をつなぎ，学習者の日本語使用の向上や企業文化の理解を促進するための教室活動をデザインすることができる。 （８）学習者が職場をはじめとする関係者とより良い関係を構築し，必要に応じて援助を引き出すなど，コミュニケーションを活性化することを促すための教室活動をデザインすることができる。	**【１．言語教育者としての態度】** （1）日本語教育の専門家として，就労先や学習者自身の課題や目的・目標を理解し，日本語教育の指導により良く反映させようとする。 （2）日本語教育を通して，学習者のキャリアにプラスになる支援を行おうとすると同時に，個別のビジネス場面会話に過度にとらわれず，就労の基盤となる分析力や論理的思考力等を育成しようとする。 （3）職場をはじめとする関係者と円滑に協力し，共に効果的に日本語教育プログラムを実践しようとする。 **【２．学習者に対する態度】** （4）一つの答えを与えるのではなく，多様な価値観を提示するよう努めるとともに，学習者が自ら調べ学ぶことができるよう支援しようとする。 （5）学習者のこれまでのキャリアに敬意を払い，異なる社会の中でより良い自己実現を果たせるよう支援しようとする。 （6）学習者の就労に対する希望を踏まえ，目標達成までの日本語学習計画を粘り強く伝え，励まそうとする。 **【３．文化的多様性・社会性に対する態度】** （7）国内外の外国人材を取り巻く社会状況の変化に関心を持とうとする。 （8）学習者の社会経験や文化背景からくる職業観を理解し，職場をはじめとする関係者に対して理解を求め，相互理解を促そうとする。